



スモールステップ



7月号

役割の力

中学部主任 渡邊 慶

私からは「役割の力」についてお話をさせていただきます。

役割は社会生活の中で誰もがもっているものです。私達教員もそれぞれの役割があり、それがしっかりと果たせるように日々取り組んでいます。児童・生徒達も学校で、学級や学年、学部内で係活動などの役割をもって生活をしています。その中で、自分の役割を忘れずに出来るようになったり、正確に出来るようになったりすることで自己肯定感や自己有用感が高まります。自己肯定感は自分に自信がつくことで、そこからいろいろなことに積極的に行動することが期待されます。また、自己有用感は、「人の役に立っている」「貢献している」と感じることです。これらはまさに人にとって「生きがい」につながっていきます。この二つを高めていくことは長い人生で働き続けたり、生き生きと過ごしたりするために、とても重要になってきます。

学校では、児童・生徒一人一人が役割をもつことを大切に、「よくできたね」という言葉に加え、「ありがとう」や「助かったよ」など感謝の気持ちも伝え、この二つを高めていきたい思います。ご家庭でも、是非家族の一員として何か役割を与えてくみてください。小さなことでもかまいません、そして出来た時には感謝したり評価したりして育ててください。将来の為に考えると難しいかもしれませんが、それが笑顔で楽しい毎日につながる手助けになると思っています。みてください。

本校の医療的ケアについて

養護教諭 小川 陽子

肢体不自由校でのみ実施していた医療的ケアが、平成28年度より全ての都立特別支援学校で実施開始となり、本校も平成30年より本格実施がスタートしました。現在、3名の児童に7名の非常勤看護師がローテーションを組み、安全な医療的ケア実施の運営を行っています。子供たちが健康で安全な学校生活を送るうえで、校内体制はもとより、保護者、指導医、学校医、主治医を含めた各医療機関、福祉機関等の御理解と御協力は欠かせず、地域に見守られながら、すくすくと成長していく様子を見ると、医療的ケアを受けながら安全に日々の教育活動に取り組める事の重要性をあらためて思う日々です。肢体不自由校とは異なる教育環境の中で、教職員間の情報共有や医療的ケア活動の理解と啓発、安全に実施できるための緊急時対応訓練等をこれからも引き続き取り組んでいきたいと思っています。